

2026年(令和8年)1月15日(木曜日)

アメ市の神殿完成

職能短大 軽量化し組み立て式に 学生が製作

秋田職業能力開発短期大学の学生が製作を進めていた大館市の冬の風物詩「大館アメッコ市」の会場に設置される神殿が完成し、14日に同校で神事が行われた。老朽化が進み、市観光協会が製作を依頼。試作を経て、軽量化を図り、運搬や設置がしやすい神殿が2年がかりで完成した。2月14、15日のアメッコ市でお披露目される。

当日、会場に設置へ

完成した神殿は高さ3・2メートル、一回り小さくして軽量化を図り、横幅2・65メートル、奥行き1・7メートル、運搬しやすいように全・8脚。これまでの神殿より、この壁を取り外し、屋根も3



完成した神殿の前で談笑する学生と中田准教授(秋田職業能力開発短大)

分割できる仕様にした。運搬や設置作業は業者が重機を使って行われてきたが、新たな神殿は学生が協力して30分ほどで組み立てることができたという。

製作したのは住居環境科の2年生5人。卒業研究にあたる総合制作実習で昨年5月に着手した。昨年度の先輩が試作した図面を参考にしつつ、材料に県産の杉を使い、一から加工して完成させた。リーダーの西田樹さんは「今まで学んできたことを生かし、完成品は自信を持って100点と言え。経験や知識不足もあったが、チームで協力し作業できた」と振り返る。



神事には学生をはじめ関係者約30人が臨んだ。観光協会の山城久和会長は「新しい神殿は400年以上続くアメッコ市のシンボルとなる。歴史の一部をつくり上げてくださった、披露するのが楽しみ」と製作に感謝した。

指導した同科の中田智大・能力開発准教授は「屋根を3分割するなど学生たちがアイデアを出し合った。地域に役立つものづくりに携わり、いい経験ができたと思う」と話した。西田さんは「アメッコ市を訪れる人が健康に過ごせるように、ぜひ神殿で願ってほしい」と呼びかけた。

アメッコ市会場のおおまち八チ公通りには、鳥居と神殿が設置され、例年参拝する来場者の列ができる。これまで使われてきた神殿は杉の間伐材で作られ、1986年に大館青年会議所が寄贈したもので、普段は大館神社境内に保管されている。老朽化が進み、運搬する業者の確保も難しくなり、観光協会が同校に相談。昨年度は2年生3人が試作し、本年度、観光協会が正式に製作を依頼した。

神事に臨む関係者